

砂防学会 研究発表会及び現地研修会において 調査研究成果と対策工事の進捗状況を発信

紀伊山系砂防事務所
大規模土砂災害対策技術センター

研究発表会 H29.5.24~25 at 奈良春日野国際フォーラム(奈良市)

全国から砂防分野に携わる研究者や民間事業者、行政関係者等、約1000名が集まったこの機会に、紀伊山系砂防事務所、大規模土砂災害対策技術センター、連携して調査研究活動を進めている和歌山県土砂災害啓発センターの職員が、日頃の取り組み成果を発表しました。(主発表13件+関連15件)

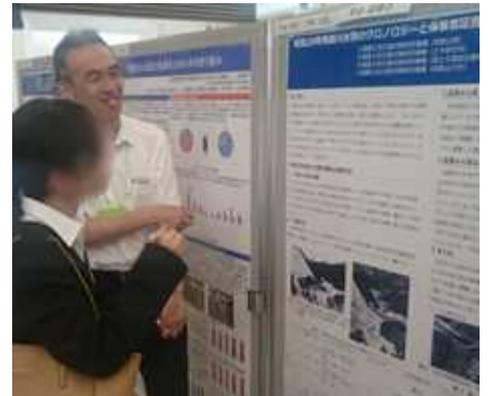
また、事務所長による深層崩壊・天然ダム対策の現状と今後の課題をテーマとした講演、対策事業の概要等を紹介したパネル展示のほか、十津川村長による災害からの復旧・復興の状況に関する特別講演も行われるなど、H23紀伊半島大水害に関する様々な取り組みを広く紹介する機会となりました。



大規模土砂災害対策技術センター・
木下主任研究官による研究発表
タンクからの流出量が浸透過程及び土砂
移動量に及ぼす影響



大規模土砂災害対策技術センター・
田中係長による研究発表
空中電磁探査による比抵抗に着目した深
層崩壊危険斜面の抽出技術の開発



和歌山県土砂災害啓発センター・
坂口所長による研究発表
昭和28年有田川水害のクロノロジーと体験者
証言から考察する今後の土砂災害対策



能楽ホール(企画セッション・特別講演会場)

吉村事務所長による企画セッション
深層崩壊・天然ダム対策の現状と今後の課題



更谷十津川村長による特別講演
紀伊半島大水害の対応と復旧復興について



ポスターセッションの様子



パネル展示
紀伊山系砂防事務所の事業概要 等

質疑応答など

木下主研発表

Q: 植生の違いは影響しないのか？

A: 薪炭材が多く、大きな違いは見られなかった。

田中係長発表

Q: 空中電磁探査は雨季乾季ともに有効か？

A: 電気的性質を捉えるため、水の少ない乾期が望ましい。

和歌山県西岡主査発表

Q: 水の滞留年数とECの関係はどうか？

A: 岩石との接触面積が大きい、長期間接触していることがECの上昇と相関が見られるように考えている。

砂防学会 研究発表会及び現地研修会において 調査研究成果と対策工事の進捗状況を発信

紀伊山系砂防事務所
大規模土砂災害対策技術センター

現地研修会 H29.5.26 at 赤谷地区・清水地区(五條市大塔町)

大学関係者、国の研究機関、建設コンサル等から43名が参加し、深層崩壊・天然ダムが発生した赤谷地区及び清水地区の対策工事の現場を見学していただきました。参加者からは、災害のスケールを実感して改めて驚く声が聞かれたほか、対策の内容等についてのご意見・ご質問も多くいただきました。



対策状況の見学(清水地区)



深層崩壊斜面の見学(赤谷地区)



木村副所長による対策等の説明(清水地区)



柳谷建設専門官による対策等の説明(赤谷地区)

～参加者の声～

- こんなに規模が大きいとは想像できなかった。
- (質問) どのような監視、観測体制をとっているのか。
(回答) 地盤伸縮計、パイプひずみ計、地中伸縮計、杭式傾斜計等を利用して観測を実施している。
- (質問) 赤谷は再崩壊したということだが、再崩壊した土砂は、どのくらいの速さで崩落したのか。
(回答) 崩壊の映像を見ると時速80km以上はあるようである。

コース概要

JR奈良→清水地区→赤谷B地区(治山)
→赤谷地区→JR奈良

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
紀伊山系砂防事務所 工務課
〒637-0002 奈良県五條市三在町
1681
TEL 0747-25-3111 (代)

